

令和5年度 自己点検評価報告書（保健医療学研究科）

全体的な状況と評価

保健医療学研究科は、大学の理念・目的の基に、「地域の保健医療を支える」を基本理念として、保健医療の分野に関してより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、総合的な調整能力・指導力・教育力等を有する高度専門職業人を養成することにより、本県の保健医療関係職種の質の向上を図り、もって県民の生涯を通じた健康づくりと保健医療水準の向上に寄与することを教育研究上の目的としている。この目的を実現するため、研究科に携わる教職員（全員が保健科学部教職員と兼任）が保健科学部の活動とともに日々の教育・研究活動に取り組んでいる。そのため、本報告書では、教育活動を中心に研究科として自己点検評価した結果を報告する。

大学および法人が示す第二期中期目標は順調に達成することができたと評価しており、現在では第三期中期目標の達成に取り組んでいる。また、大学基準に沿った教育についても概ね良好な状況で行えていると考えている。なお、中期目標にそった全項目（教育を含む）の自己点検評価の詳細は年度ごと、中期計画期間ごとの全項目の自己点検評価結果（業務実績報告書）に記している。

教育活動（教育課程・学習成果・学生の受け入れ）

教育課程・学習成果に関する看護学専攻・医療技術科学専攻の自己点検評価は以下のとおりであるが、いずれの専攻も、大学基準を満たした教育が展開できていると考えられる。現在、看護学専攻、医療技術科学専攻の学習（学修）成果のさらなる可視化に取り組んでいる。特に研究科は在籍学生数が少ないために、学習（学修）成果の可視化には工夫が必要であると考えており、研究科長及び研究科、両専攻長及び両専攻において学習（学修）成果の可視化への更なる開発や取り組みが必要であると考えている。看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っており、研究科全体・看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも、入学定員充足率、収容定員充足率は適切な範囲内で保たれている。本研究科では入学生の95%以上が学位の取得が出来ており、学生の受け入れ方針に従った学生の選抜が継続的に出来ている状況を間接的に表していると考えている。

看護学専攻 自己点検報告書

令和5年度看護学専攻 自己点検報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、

回答欄「S・A1・A2・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ。

※注3 「S・A1・A2・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A1・A2・B」は前年度から「S : さらに改善することができた、A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた、A2 : 改善を目指して取り組みを始めた、B : 改善することができなかった。」を意味する。

教育課程・学習成果・学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい

2.3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A2 : 改善を目指して取り組みを始めた

専攻に評価委員会を設置し、教育目標を踏まえ、教育課程が適切に関連性をもって編成され、実施されているかの検証を行っている。学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の関連性については、教学マネジメント委員会から提供された学習成果・教育成果レポートを基に、DP 修得や教育目標達成状況について検討し、検討結果を集約した上で、分析評価報告書として看護学専攻長から教学マネジメント委員会に提出した。今回の分析で課題に挙げた項目については、次年度以降引き続き改善を目指す。また、大学レベルにおいても、教学マネジメント委員会において、全ての学位プログラムの3つのポリシーの適切性や関連性について、3つのポリシーの策定、見直しの方針に従って検証がされている。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

大学院修士課程カリキュラムポリシーの下、令和3年度以降の入学生に対し、看護学専攻では「専門科目は、『専門共通』と『専門分野』、『特別研究』の区分で構成している。①保健医療分野の高度専門職業人として、地域の保健医療に係る諸現象や他職種を理解し、視野の広い判断能力・指導力・管理能力・教育力等を身に付ける上で基盤になる教育内容を、両専攻の学生がともに学び合うことでの相乗効果を期待し、研究科の「共通科目」として7科目を配置し、保健医療システム論、医療倫理学特論を必修科目としている。②これらの科目における協働学習や討論を通して培った視野の広がりや相互理解の深まり等を基盤とし、その上に、看護学の専門性を追究していくことを目指して、『専門共通』、『専門分野』を設けている。③『専門共通』は看護学のいずれかの専門分野や特別研究を極めていくうえで、看護学として共通に学修する必要がある科目を配置し、個人のニーズに合わせて選択としている。④『専門分野』は、〈基盤看護〉、〈育成支援看護〉、〈成人看護〉、〈高齢者看護〉、〈精神看護〉、〈地域看護〉の6分野22科目で構成する。看護学専攻では、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていくことを意図し、研究しようとする領域については6単位以上、それ以外の専門科目(選択)から2単位以上を履修することとしている。⑤特論では、その専門領域における中心概念や理論およびその展開方法等、演習は事例検討やフィールドワーク、文献のクリティーク等を通して学修した内容の理解を深化させるとともに、研究計画につなげ、学生を主体とする発表・討論を軸に進めるようにしている。⑥特別研究では、指導教員による個別指導を重ねながら、研究課題の探究から研究計画立案、発表会、研究の実施、中間報告会、論文作成、最終発表会と口頭試問のプロセスを経ることとし、これらを通して研究力の修得を図っている。⑦2年次には研究が中心となるよう1年次にできるだけ特別研究以外の科目を履修し、1年次後期からはそれと並行して研究計画に取り組めるよう履修指導を行っている。長期履修の場合も、選択する研究領域科目および研究方法に関わる科目を履修期間の前半に履修し、系統的にリサーチワークが行えるよう履修指導を行うようにしている。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

修士としての能力育成の観点から、共通科目、専門共通と専門分野からなる専門科目を1年次に配置している。また、DPに示されている能力育成については、その要素を各種科目に配置するとともに、1年次の特別研究Ⅰにて論文研究計画発表、2年次の特別研究Ⅱ

にて論文発表会を実施するなど、段階的に学修を積み重ね、専攻する専門分野の学修の集大成として特別研究により発展させ、修士学位論文の作成へとつながるカリキュラムを編成している。【研究科共通】

3.3 授業期間の適切な設定がされていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則第10条および愛媛県立医療技術大学授業時限、授業時間及び授業期間を定める規程に基づき、実施している。

3.4 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに基づき、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定し、単位及びその修得について明示している。【研究科共通】

※全学的な取り決め：大学設置基準第21条を準用することとなっているため、本学も、講義1単位15時間、演習1単位30時間を原則としている。

3.5 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

A2：改善を目指して取り組みを始めた

シラバスに授業科目の内容及び方法を明示するとともに、DP評価および授業評価アンケート結果をもとに、科目単位で個々の授業科目の内容及び方法について見直しをすることに取り組み始めた。

3.6 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

国における「大学における看護系人材養成の在り方検討会」でのモデルコアカリキュラムで提示された能力を修得した学生がさらに発展的に能力育成できるように、健康に関連する現象の分析や構造化、リーダー的役割、科学的な探求方法や態度について、専攻のAP、CP、DPに位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.7 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

看護学としての共通科目として、看護研究方法論ⅠとⅡ、看護管理学特論、理論と看護実践論を1年次に配置し、専門分野や特別研究を極めるうえで基盤となる科目を学修できるようにしている。続いて、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていけるように設定されている。

3.8 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等ができていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに基づき、実施している。リサーチワークとしての修士論文の作成に重きをおき、指導教員による授業内外での個別指導に加えて、「修士学位論文研究計画発表会」「修士学位論文中間報告会」等を通じて、学生の調査・研究能力の向上を図っている。社会人学生がほとんどで長期履修制度を利用する学生が多い本専攻の状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、学生と話し合いながら実施している。

※全学的な取り決め：授業科目のナンバリングを通して各授業の性格を可視化することによって、個々の学生がリサーチワークとも連動させながら、主体的なコースワークを選択し、研究能力を段階的に高めていくことができるように工夫している。また、「研究指導計画」を策定し、標準在籍期間におけるコースワーク・リサーチワークの大枠を明示している。

3.9 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

3.1 から 3.9 に示した通り、教育課程・教育内容の適切な提供、カリキュラムの順次性・体系性の確保、授業期間、単位、個々の授業科目の内容及び方法の設定等について専攻として適切に行っていると評価しており、教育課程の編成・実施方針に基づき各学位課程にふさわしい授業科目の開設と教育課程の体系的な編成に概ね効果的に取り組んでいる。令和4年度から教育に関する内部質保証を担っている教学マネジメント委員会に対して、専攻から本報告書を提出するとともに、同委員会から課題を指摘された場合には、専攻評価委員会を中心として課題についての検討や改善を図り、その結果を同報告書にて報告をしている。また、専攻長が同委員会にメンバーとして参加し、委員会で示された課題を専攻に持ち帰り報告し、改善に努めてその結果を報告するよう関わっている。

※令和3年度までは、カリキュラム委員会がカリキュラム評価をして、教育課程編成の必要性に応じてカリキュラム検討委員会が設置され、そこで検討が行われてきた。

3.10 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に

提供されていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

看護学専攻の方針に添って、共通科目、専門科目を通じてこれらの能力育成を自身で考える機会を提供している。また、教育協力者や非常勤講師による具体的な看護実践を聞く機会や、修了生による修了後の体験等についても共有できる場を提供している。

※看護学専攻の方針：修了後も看護実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけること、看護実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法や態度を身につけられる。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

自主学習情報を記載した授業計画の立案と提示、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価や学生による授業評価の実施などを行うとともに、各教員から学生の主体的な学修を促し、単位の実質化を図るための措置をしている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

A2：改善を目指して取り組みを始めた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各専門分野内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。また、特別研究ⅠやⅡでは、学内教員による相互参観授業を積極的に取り入れ、フィードバックを行っている。さらなる改善を目指して、今年度から DP 評価や授業評価を基に、各授業単位でも授業内容とシラバスの点検についても実施した。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

社会人学生が多い本専攻の状況にも配慮し、教務委員会の取り決めに基づきながら、学生の学修状況に応じて、DP 等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを配布して周知している。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

個人のニーズに合わせた授業履修ができるようにし、授業への主体的参加を促している。また、特論等では授業形態に事例検討やフィールドワークを取り入れ、事例の多面的な見方や実践から得られた情報等を総括していく機会を多く設けている。加えて、反転授業、グループによる文献のクリティークなどを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業時の開始時に前回の学習内容のフィードバックや学生からの質問時間を確保し、学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

入学前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施し、2年次以降も毎年実施している。また、修了生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。加えて、職業との両立を図るため、大学院設置基準第14条特例を適用し、授業を夜間や土曜日・日曜日に実施している。また、科目履修については、研究指導教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応し指導を行い、オンラインによる指導も適宜取り入れている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適切な学習課題の提示をしていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、学生の理解度を確保しながら指導を行っている。また、発話や具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や事前課題に対して、授業時内外に学生の学びのフィードバックを行うとともに、他の課題との重複で過重負荷になっていないか締め切り日の設定など確認しながら行っている。

4.8 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施をしていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに基づき、実施している。また、論文研究計画発表会においては隣接領域を含む教員が院生に対組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。発表会では、院生が用意した研究計画を踏まえて、さらに掘り下げるべき点や欠落している点などを指摘して、論文の完成に向けた詳細なコメントを加えている。論文中間発表会では、修士課程1年生が発表会を運営し、次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立てている。論文中間発表会と発表会では、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、効果はあがっている。

※全学的な取り決め：修士学位論文作成の手引き（研究指導計画及びスケジュール）にて、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の個別指導計画書作成することを定めている。

4.9 各専攻における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

4.1 から 4.8 に示した通り、単位の実質化やシラバス内容や実施に関する措置、学生の能動的学習への促しや学習の進捗・理解度の確認、履修指導や適切なフィードバック、研究指導計画に基づいた研究指導等について専攻として適切に行っていると評価しており、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置について概ね効果的に取り組んでいる。これらのことについて、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告し、同委員会は課題があれば専攻に対して指摘の上、改善を求め、専攻は同委員会から指摘された課題に対して検討や改善を行い、その結果を本報告書で報告するようにしている。また、今年度から、2023 年度学習成果・教育成果レポートを基に、DP 修得や教育の目標達成について分析を行い、専攻長から教学マネジメント委員会に分析評価報告書として報告し、全学内部質保証推進組織と連携している。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価や単位認定については、大学院学則 26、27 条に定められているとおりに行っている。各科目の成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じてレポートなどの結果で成績評価が行われている。【研究科共通】

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

他大学等での既修得単位については、大学院学則第 29 条に定めたとおり行っており、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行うしくみを整えているが、これまで該当例はない。【研究科共通】

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置は講じていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価の方法と基準はシラバスに明示し、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価を行っている。論文作成にあたっては、本専攻は主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保している。令和 3 年度からの新カリキュラムでは特別研究 I・II の評価基準を詳細に定め、より客観性・公正性を担保している。また、各教員が自分の担当授業の成績評価を検証できるように、教学マネジメント委員会が学修成果・教育成果レポートによって専攻別 GPA 集計表を配付し、教員は自身の授業科目レベルでも GPA を評価し、成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置を講じている。

5.4 修了要件を明示していますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

修了要件は大学院学則第 37 条に明示するとともに、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、文面とともに卒業要件を口頭でもガイダンスを実施の上、ホームページ上で明示している。また、学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、論文発表会における指導によって学位論文および最終試験の審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。【研究科共通】

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A2：改善を目指して取り組みを始めた

成績評価及び単位認定については大学院学則等で全学的なルールを設定するとともに、学位授与の状況の適切性について専攻として点検を行い、教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に専攻の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。なお、アセスメントプランに含めるために、学習者の評価方法については引き続き検討していく【研究科共通】

5.6 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表ができていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学生に対して学位授与方針と学位論文審査基準を明示するとともに、修士学位論文作成の手引きやホームページにおいて公表している。

5.7 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置を講じていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学位論文発表会（最終試験）及び口頭試問審査意見の機会を設けており、いずれも指導教員以外の複数の教員が参加している。これらの結果と教務委員会による取得単位の確認とを合わせて、最終的に研究科委員会で判定を行い、学位審査及び修了認定の客観性と厳格性を確保している。【研究科共通】

5.8 学位授与に係る責任体制及び手続を明示していますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

事前に公表している手続と日程に添って院生に修士論文の提出を求め、指導教員が副査、他の教員が主査・副査となって審査を行っており、学位授与に係る責任体制及び手続きを明示している。【研究科共通】

5.9 適切に学位を授与していますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針を明示するとともに、学位請求論文の査読と口頭試問の結果に基づいて、教員による審議を行って学位の授与を決定している。【研究科共通】

5.10 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

5.1 から 5.9 に示した通り、全学的なルールに沿った単位認定や成績評価、学位論文審査及び修了認定を適切に行うための措置、「学位授与規程」に沿った適切な学位授与のための措置を専攻として行っており、適切な成績評価、単位認定及び学位授与について概ね効果的に取り組んでいる。また、運営戦略会議の構成員を含む教授のみの研究科委員会で学位授与の判定をしており、学位授与規程改正の必要がある時には、教学マネジメント委員会から研究科委員会に問題提起し、各専攻の意見を集約して決定していくこととしている。加えて、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得るとともに、教学マネジメント委員会にて本報告書を報告し、全学内部質保証推進組織等と関わっている。【研究科共通】

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定した指標等を学習成果測定の指標（アセスメントプラン）として活用している。加えて、特別研究の成績を指標に学修成果を把握している。また、看護学専攻の特性に応じた学位授与方針および論文審査基準、特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を定めている。

※教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）：新入生アンケート、PROG調査、学位プログラムとしての単位取得状況、授業評価アンケート結果、GPA評価、DPアンケートおよびカリキュラム・学習環境等評価アンケートの結果

6.2 6.1の設定に基づき評価するための方法を開発していますか。

A2:改善を目指して取り組みを始めた

全学的な取り決めにに基づき、DPに関する学習成果の把握・評価につなげている。加えて、個別授業での受講者が取り組んだ課題や研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数でお粉割れ、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、助言やフィードバックを随時行っている。また、論文中間発表会および論文発表会での研究発表は、学習成果を組織的に把握し、院生らの到達度を評価できる方法となっている。他にも、学部の実習等で修了生の就職先とも密に関わり、そこで得られた現場での意見等についても専攻内で共有している。

一方で、所属学生数の少なさから、現在の評価が最適とは考えておらず、客観的な評価指標や方法については評価委員会等で検討を続けている。

※全学的な取り決め：教学マネジメントが学位授与方針に明示した学習成果の把握及び評価のためのアセスメントプランを設定しており、DPに関する学習成果に関するデータや修了生自身に対するアンケートを実施している。

6.3 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針に明示した学生の学習成果の適切な把握及び評価できるように教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランに基づき、専攻として学修成果の可視化について分析を行った上で、同委員会に分析法告書および自己点検報告書にて報告して

いる。教学マネジメント委員会は専攻に課題がある場合は指摘を行い、改善を求めている。専攻は指摘を受けた課題について専攻内で検討し、自己点検報告書として専攻長から教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

【研究科共通】

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が定めたアセスメントプランに基づきまとめられた学修成果・教育レポートおよび授業評価アンケート結果について、専攻がその結果を活用して定期的な点検・評価を行い、学修成果・教育成果の自己点検・評価報告書や本報告書で報告している。また、研究科委員会を概ね毎月開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について検討し、研究科委員会で審議している。加えて、今年度は大学院教育に携わる教員を対象として、大学院教育の評価に関する聴き取り調査を行い、発表された修士論文のテーマや寄せられた意見を基に、院生の目標やモチベーションに配慮した細やかかつ柔軟な指導が担保できていることがについて評価を行った。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた
(一部、A2： 改善を目指して取り組みを始めた)

7.1での学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠による定期的な点検・評価に基づき、専攻として検討や各担当教員が授業改善・向上に努めている。また、専攻の取組みとして、学生の学習効果に貢献した指導方法等を専攻内教員で共有する機会を設けている。

8 学生の受け入れについて評価や必要な取り組みを行っているか。

8.1 DPの修得に相応しい入学者の確保ができていますか。

A2:改善を目指して取り組みを始めた

2022年度の卒業時GPAの平均3.45、留年率0%と、2018～2021年度と概ね同様に良好な数値を示しており、DPの修得に相応しい入学者の確保ができています。一方で、入学定員を充足できていない状況が2年間続いており、今年度は、研究科メンバーを中心に入学者確保に向けた意見聴取を行い、オンライン教育の拡充や部生が卒業前に、本学の大学院への入学をイメージできるような機会を増やすことについても検討を行い、それらを具体化していきながら引き続き入学者の確保に努めていく。

8.2 学生の受け入れに関する選抜制度について評価・検討をしていますか。

A2:改善を目指して取り組みを始めた

入学志願者の充足に向けて、学生募集の広報、受験資格、社会人学生の学習しやすい環境づくりについて評価や検討を行っている。8.1の入学者確保と併せて、選抜制度については引き続き検討していく。

(2) 教学マネジメント委員会から示された改善課題に対する対応状況

教学マネジメント委員会から示された改善課題「学位プログラム責任者主導による学修成果・教育の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の仕組みの強化」に対して、専攻における検証の仕組みとして、専攻に評価委員会を設置した。学位プログラムの教育に関する分析や自己点検・評価について、2023年版学習成果・教育成果レポートを基に、各領域単位で読み取りした結果を評価委員会が集約し、分析評価報告書として、専攻長から教学マネジメント委員会へ提出した。また、分析評価報告書を基にして、シラバスや授業の改善に取り組むことについて依頼した。

(3) 長所・特色（学修成果の可視化に関するIRの結果を含むこと）

2022年度は、就職進路100%、留年率0%と2018～2021年度と同様に全国的な状況から見ても好ましい結果で推移している。卒業時のGPAは3.45で、過去4年間と比較しても高い水準であり、コロナ対策下でも全般的には高い水準で推移していると評価でき、学位プログラムとしての教育の目標は概ね達成され、学びの質が担保されていると考えられる。また、全学的な取り決めに基づき、全専任教員が参加する論文研究計画発表会、論文中間発表会を設け、計画発表会で各々の大学院生の研究構想に対してその方向性に関する多面的な助言や指摘を行うとともに、中間発表会で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制が整っている。また、主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保するとともに、長期履修制度を利用する学生が多い本専攻の状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、学生と綿密に話し合いながら実施している。

(4) 課題・問題点 (学修成果の可視化に関する IR の結果を含むこと)

教育課程や学習成果に関わる措置については、専攻として概ね効果的に取り組むことができしており、大きな課題はないと言える。一方で、DP に関する学生の学習成果の適切な把握と評価に関しては、さらに適切な評価方法を引き続き検討していく。また、修了後の学術集会での発表や学会雑誌への投稿の割合が高まってきた反面、コロナ対策に従事していた修了生も多く、修了後1年以内の発表や公表ができていない修了生も散見され、速やかな研究成果の公表について、在学時から終了後の発表や公表について教員から院生に対してさらなる促しをしていく必要がある。加えて、学部同様にコロナ対策下においてオンライン授業を積極的に活用してきたが、対面授業と比較したメリット・デメリットも考慮しながら、学生の受け入れと併せて引き続き検討していく必要がある。

医療技術科学専攻 自己点検報告書

令和5年度 医療技術科学専攻 自己点検報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ。

※注3 「S・A1・A2・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A1・A2・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A1：従来通り効果的に取り組むことができた、A2：改善を目指して取り組みを始めた、B：改善することができなかった。」を意味する。

教育課程・学習成果・学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい

2.3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教育目標、学位授与方針（DP）の達成、教育課程の編成の適切性評価については、教学マネジメント委員会から提出された学修成果・教育成果レポートを検証の根拠とし DP 伸長度/達成度を評価している。分析結果は、分析報告書として医療科学技術専攻長から教学マネジメント委員会に提出している。アンケートの対象者が少ないため、数年まとめた結果を分析し、課題を検討する予定としており、課題については改善を目指す。また、大学レベルにおいても、教学マネジメント委員会において、全ての学位プログラムの3つのポリシーの適切性、関連性を3つのポリシーの策定、見直しの方針に従って検証がなされている。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

1年次教育に、地域の保健医療に係る諸現象や他職種を理解し、視野の広い判断能力・指導力・管理能力・教育力等の基盤修得できるように、生涯教育学特論、保健医療統計解析、疾病制御学特論等の共通科目を設けている。また、専門分野や特別研究を深く学習するにあたり、医療技術科学としての共通学修科目を設定している。更に、分子細胞生物学、遺伝子検査学、感染制御学、病理細胞診検査学、生体防御学、生体機能検査学、病態情報解析、血液病態検査学の各専門領域の内容理解を深化できるように科目を配置している。令和5年度からは時代の要請に合わせ、感染症学特論・演習を追加し、感染症専門検査技師プログラム設置したほか、細胞検査士養成プログラムの内容を追加した。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

修士としての能力育成の観点から、共通科目、専門共通と専門分野からなる専門科目を1年次に配置している。また、DPに示されている能力育成については、その要素を各種科目に配置するとともに、1年次の特別研究Ⅰにて論文研究計画発表、2年次の特別研究Ⅱ

にて論文発表会を実施するなど、段階的に学修を積み重ね、専攻する専門分野の学修の集大成として特別研究により発展させ、修士学位論文の作成へとつながるカリキュラムを編成している。【研究科共通】

3.3 授業期間の適切な設定がされていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則第 10 条および愛媛県立医療技術大学授業時限、授業時間及び授業期間を定める規程に基づき、実施している。

3.4 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定するとともに、単位及びその修得について明示している。

【研究科共通】

※全学的な取り決め：大学設置基準第 21 条を準用することとなっているため、本学も、講義 1 単位 15 時間、演習 1 単位 30 時間を原則としている。

3.5 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

A2: 改善を目指して取り組みを始めた

毎年度、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示しているが、DP 評価および授業評価アンケート結果をもとに、更なる改善を目指して取り組み始めている。

3.6 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

DP を達成するために次の 3 つのこと、「臨床検査学を発展的に実践できる、様々な実践の場におけるリーダーまたは管理者としての能力の醸成や科学的な探求方法や態度を身につけられる、保健医療分野に関しての広い見識をもてる」が実践できるよう、専攻の AP、CP との関連を位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.7 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、看護学専攻との共通科目の医療情報や医療倫理、保健医療に関する科目のほか、医療技術科学の共通科目として、臨床検査技術学特論、医療技術科学研究方法論 I・II のほか、令和 5 年度より感染症学特論を 1 年次に配置し、専門分野や特別研究を極めるうえで基盤となる科目を学修できるようにしている。続いて、専門領域ごと

に特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていけるように設定されている。

3.8 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等ができていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、リサーチワークとしての修士論文の作成に重きをおき、指導教員による授業内外での個別指導に加えて、「修士学位論文研究計画発表会」「修士学位論文中間報告会」等を通じて、学生の調査・研究能力の向上を図っている。また、本専攻には社会人学生に加えて職を有しない学生も混在することから、それぞれの状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、学生と話し合いながら実施している。

※全学的な取り組み：授業科目のナンバリングを通して各授業の性格を可視化することによって、個々の学生がリサーチワークとも連動させながら、主体的なコースワークを選択し、研究能力を段階的に高めていくことができるように工夫している。「研究指導計画」を策定し、標準在籍期間におけるコースワーク・リサーチワークの大枠を明示している。

3.9 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

3.1 から 3.8 に示しているように、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性、カリキュラムの順次性・体系性の確保、授業科目の内容及び方法の設定、授業科目の位置づけ（必修、選択等）の適切性、各学位課程にふさわしい教育内容の設定等、医療技術科学専攻に相応しい内容で実施できていると評価しており、効果的に取り組んでいる。令和4年度から教育に関する内部質保証を担っている教学マネジメント委員会に本報告書を提出し、課題を指摘された場合には、専攻科内で検討し、改善点等を報告している。また、令和6年度に向けては教学評価委員会を設置し、専攻内での検討課題を引き続き分析・改善していく予定である。また、教学マネジメント委員会の構成員である学科長は、同組織からの課題を受けて専攻に報告し、改善に努め、またその結果を教学マネジメント委員会に報告し、必要な支援を得ている。

3.10 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻の方針に則って、共通科目、専門科目を通じてこれらの能力育成を自身で考える機会を提供している。また、卒業後に、学会発表や論文投稿の協力等も行い、継続的に学究的態度を持ち続けられるような場を提供している。

※医療技術科学専攻の方針：修了後にも実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけること、臨床検査の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法や態度を身につけられる。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価を行っている。また、授業の評価とFDについては、学生による授業評価の実施を行うとともに、教員から学生への自主学習を促すための課題の提示と確認を行い、単位の実質化を図るための措置をしている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

A2： 改善を目指して取り組みを始めた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各専門分野内で確認しながら実施している。また、学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。今後も更なる改善を目指して、2023年度学修成果・教育成果レポートや各科目の授業評価およびDPアンケートを基に授業内容とシラバスの見直しをはじめている。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、社会人学生が多い本専攻の状況にも配慮し、学生の学修状況に応じて、DP等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを周知している。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、授業形態に課題提示を行い、この課題をプレゼンテーションしてもらいながら、議論する機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、事前資料を渡しての反転授業、グループ/個人による文献のクリティークなどを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業で学習内容のフィードバックや学生からの質問を対面やメールで対応することで学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付けるように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

入学前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施している。また、修了生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。科目履修については、指導教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応し指導を行っている。社会人学生に対しては、大学院設置基準第14条特例を適応し、夜間や土・日曜日の授業を実施している。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、学生の理解度を確認しながら指導を行っている。また、具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や事前課題に対して、授業時内外にメール等でも対応しながら学生の学びのフィードバックを行っている。社会人学生についても、仕事の状況も考慮しながら、課題が過重となっていないか確認しながら実施している。

4.8 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り決めに従って指導している。また、論文研究計画発表会においては関連領域を含む教員が院生に対組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。論文中間発表会では、修了学年以外も参加し次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立てている。論文中間発表会と発表会では、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、効果はあがっている。

※全学的な取り決め：修士学位論文作成の手引き（研究指導計画及びスケジュール）にて、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の個別指導計画書作成することを定めている。

4.9 各専攻における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

4.1 から 4.8 で示したように、学位課程の特性に応じた単位の実質化、シラバスに従った内容の実施、適切なシラバス改訂と学生への周知、主体的参加を促す授業形態・授業内容及び授業方法や、教育の目標を達成するための授業の履修に関する指導、学生の学習の進捗と理解度の確認、その他効果的な学習のための指導や量的・質的に適当な学習課題の提示等について、適切かつ効果的に実施されていると評価している。これらのことは、教学マネジメント委員会に報告し、課題があれば、指摘を受け改善が求められるようになっている。その課題は、専攻で検討し、改善した結果を本報告書で報告している。また、今年度より 2023 年度学修成果・教育成果レポートに基づいて、分析を行い、専攻長から教学マネジメント委員会に分析評価報告書として報告し、全学内部質保証推進組織と連携している。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

各科目の成績評価は大学院学則第 26 条、27 条に定めており、担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じてレポートなどの結果で成績評価が行われている。【研究科共通】

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則第 29 条に定めている通り、他大学等での既修得単位については、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行う

しくみを整えているが、これまで該当例はない。【研究科共通】

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置は講じていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて授業参加やレポートなどの結果で成績評価が行われている。論文作成にあたっては、本専攻は主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保している。令和3年度からの新カリキュラムでは特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を詳細に定め、より客観性・公正性を担保した。また、教学マネジメント委員会が学修成果・教育成果レポートに専攻別 GPA 集計表を提示し、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を客観性、厳格性、公正性を担保するために検証している。【研究科共通】

5.4 修了要件を明示していますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了要件は大学院学則第37条に明示されており、医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、卒業・修了要件を口頭でもガイダンスを行っている。学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、論文発表会における指導によって学位論文および最終試験の審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。【研究科共通】

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A2: 改善を目指して取り組みを始めた

成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、大学院学則等で設定するとともに学位授与の適切性について、専攻で点検し教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。今後、アセスメントプランに含めるために、学習者の評価方法については引き続き検討していく。【研究科共通】

5.6 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表ができていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、学生に対して学位授与方針と学位論文審査基準の明示と公表を行っている。

5.7 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置を講じていますか。

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

学位論文発表会（最終試験）及び口頭試問審査意見の機会を設けており、いずれも指導教員以外の複数の教員が参加している。これらの結果と教務委員会による取得単位の確認とを合わせて、最終的に研究科委員会で判定することで、学位審査及び修了認定の客観性と厳格性を確保している。【研究科共通】

5.8 学位授与に係る責任体制及び手続を明示していますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

あらかじめ公表されている手続と日程にそって院生に修士論文を提出させ、指導教員が副査、他の教員が主査・副査となって審査を行っており、学位に授与に係る責任体制及び手続きを明示している。【研究科共通】

5.9 適切に学位を授与していますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針を明示するとともに、学位請求論文の査読と口頭試問の結果に基づいて、教員による審議を行って学位の授与を決定している。【研究科共通】

5.10 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

5.1 から 5.9 で示しているように、大学院学則に定めた単位認定や成績評価、学位論文審査及び修了認定を適切に行うための措置、学位授与を適切に行うための措置について「学位授与規程」に添って実施しており、適切に行っている。また、学位授与の判定は運営戦略会議の構成員を含む教授のみの研究科委員会で実施されている。同規程の改正の必要がある時には教学マネジメント委員会から研究科委員会に問題提起し、各専攻の意見を集約して決定していくこととしている。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に専攻の状況を直接報告し、必要な支援を得るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書を提出し、全学内部質保証推進組織等と関わっている。【研究科共通】

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学習成果を測定するための指標として、教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランを活用している。また、医療技術科学専攻の特性に応じた学位授与方針および論文審査基準、特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を定めている。また、修了後の研究活動や卒後の活躍についても把握するようにしている。

※教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプラン：新入生アンケート、授業評価アンケート結果、学位プログラムとしての単位取得状況、GPA 評価、DP アンケート、特別研究の評価、カリキュラム・学修環境等評価アンケート

6.2 6.1 の設定に基づき評価するための方法を開発していますか。

A2: 改善を目指して取り組みを始めた

医療技術科学専攻では、全学的な取り決めに添って、各 DP 関連科目の GPA、DP アンケート（各授業・年間・修了時）を学習成果の把握・評価に活用している。また、各科目においては個別授業で受講者が行う課題や報告を通じて、個別に学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数のものが多いため、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、助言やフィードバックを随時行っている。これに加えて、論文中間発表会および論文発表会での研究発表は、学習成果を専攻として把握し、院生らの到達度を評価できる方法となっている。他にも、ホームカミングデーで修了生が大学院で学べたことや活躍に生かされていること等を聞く機会を設けたりしている。しかし、修了生が少ないこともあり、客観的な評価指標については検討の余地があり、引き続き議論を続けていく。

6.3 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランに基づき、IR データの提供を受け、これらの結果の分析を行い、同委員会に分析報告書にて専攻内で検討したことを報告している。

教学マネジメント委員会は専攻に検討課題を指摘し、改善するように求めている。これを受けて専攻では、検討・改善について自己点検報告書として専攻長から教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランに基づいてまとめられた学修成果・教育成果レポートおよび授業評価アンケート結果を用い、学修成果について定期的に点検し、教学マネジメント委員会に分析報告書や本報告書で報告している。また、研究科委員会をほぼ毎月開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。この点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について検討を行い、研究科委員会で審議を行っている。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

7.1で行った結果を活用し、定期的に各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、専攻の取組みとして、学生の学習効果や資質に合わせた指導方法等を専攻内教員で共有するようにしている。

8 学生受け入れについて評価や必要な取り組みを行っているか。

8.1 DP の修得に相応しい入学生の確保ができていますか。

A2： 改善を目指して取り組みを始めた

2022年度の卒業時 GPA の平均は 3.49、退学率・留年率は 0% と良好な結果であり、DP 修得に相応しい入学生が確保できている。一方で、定員割れの状況が続き、入学生の確保が十分できていない年度があった。そのため、令和 4 年度からオープンキャンパスを積極的に実施し、令和 5 年度は定員以上の入学生の確保ができ、成果として表れている。今後引き続き入学生の確保に努めていく。

8.2 学生の受け入れに関する選抜制度について評価・検討していますか。

A2： 改善を目指して取り組みを始めた

入学生の確保が十分できていない年度があったことや、時代の変化に合わせて幅広く研究を推進していくことの重要性から、受験資格要件の見直しを行い、臨床検査技師免許を有しなくても受験できるように検討した。それに合わせて、選抜制度について引き続き検討していく。

(2) 教学マネジメント委員会から示された改善課題に対する対応状況

教学マネジメント委員会からの改善課題「学位プログラムの責任者主導による学修成果・教育の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の仕組みの強化」に対し、令和6年度に向けて教学評価委員会を設置した。学位プログラムの教育評価・点検については、2023年度学修成果・教育成果レポートをもとに、専攻内で共有・分析し、分析報告書として専攻長から教学マネジメント委員会に報告した。また、各教員担当科目のDPアンケートをもとにシラバスや授業内容の改善に取り組むように依頼した。

(3) 長所・特色（学修成果の可視化に関する IR の結果を含むこと）

2022年度の卒業時 GPA の平均 3.49、退学率・留年率は0%、DP達成度も概ね達成しており、また、過去5年間の GP 分布は2018年度の8割を除き、「優」以上がほぼ100%で良好な結果であった。これまで、社会人学生の割合が多く長期履修となるなか、学位プログラムの教育目標達成のために、コロナ状況下においても学生に合わせた指導を柔軟に対応したことも効果的であったといえる。しかし、これまで入学者が少なかったことから、今後の推移をみていく必要がある。また、全専任教員が参加する論文研究計画発表会、論文中間発表会の場を設けており、中間発表会で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制を整えている。

(4) 課題・問題点

これまでの教育課程やその内容、方法の適切性について、専攻として効果的に取り組んでいる。修了後の学術集会での発表や学会雑誌への投稿の割合が高まってきたが、修了後1年以内の発表や公表ができていない修了生がいた。令和5年度は在学中に成果を発表した院生もおり、研究成果の公表について今後も引き続き進めていく。これまで医療科学技術専攻は、定員3名を充足していない年度もあった。これに対して令和3年度のカリキュラム改正に続いて、令和5年度にも一部改正し、感染症プログラムの設置や細胞検査士養成プログラムを取り入れ、入学定員を充足した。今年度には幅広い分野から入学できるように検討を行っており、魅力ある教育課程の更なる検討やオンライン授業等、引き続き入学生確保のための方策を考えていく必要がある。また、入学定員が少ないことに加え、これまでの入学生が少ないこともあり、教育課程の客観的評価が十分でないことが課題である。学修成果・教育成果とともに適切にかつ継続的に評価していく必要がある。

教育研究環境等整備・学生支援・社会貢献・大学運営

学部と研究科を一体とした大学レベルにおいて学内組織が円滑に連携を図りながら、教育研究環境等の整備や学生支援・社会貢献・大学運営を行っている。理事長を中心とする計画的かつ機動的な運営が図られ、外部資金の獲得に努めるとともに、経費削減等による余剰金を目的積立金として老朽化施設の改修や教育・研究機器の整備などに充てられ、必要な経費の効率的、効果的な執行を図ることができている。

特に研究科に関連する教育研究環境の整備としては、大学院生室の整備の他、自主的学修支援のための図書館機能の充実（平日夜間及び土曜日の開館時間の延長、日曜日・祝日の開館日の拡大、文献検索システム・電子ジャーナルの利用方法に関する研修の実施、自宅等学外からの文献情報へのアクセス整備、ネット上から貸出資料の予約・文献取り寄せ依頼対応、データベースや電子ジャーナルの自宅利用対応等）があり、継続して利便性の向上に努めている。

学生支援は学生委員会を中心とする全学的な取り組みの他に、研究指導教員が履修指導や生活上の相談にのっている。就業していない学生には奨学金紹介やアルバイト紹介など、積極的に情報提供している。

社会貢献では、研究科独自の取り組みはないが、地域交流センターが窓口となった活動にそれぞれの専門性も活かしながら取り組んでいる。具体的な自己点検・評価報告は、毎年「地域交流センター報告書」に記している。

質の向上に向けた取り組み

教育、学生支援、研究、社会貢献については、研究科教員は全員が学部と兼任しているため、学部と共通して様々な取り組みを行なっている。

研究科・看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っているが、入学定員充足率、収容定員充足率は大学基準を満たしているものの医療技術科学は2019年の単年度ではあるものの、収容定員充足率が大学基準を下回り0.33となっていた。この改善を図るため、医療技術科学専攻に新たなコースを設けるなどの受験生増の取り組みを専攻を中心に行い、2020年度は0.50、2021、2022年度0.83と改善をしている。